

JISS Bulletin

一般社団法人スウェーデン社会研究所 所報 第 379 号



駅に貼られた選挙ポスター

【特集】2018年総選挙

今回は特集として、2018年9月9日に実施された総選挙の結果と、その後の動きを報告します。

前回 2014 年の選挙では右派の4つの政党（穏健党・キリスト教民主党・自由党・中央党）による連合（アリアンセン）が過半数

を失い、最大政党の社会民主党が政権に返り咲きました。しかしその社会民主党も、環境党と連立し、左党からの閣外協力を得ても過半数には届かず、この4年間は苦しい政権運営を強いられていました。

右派連合も左派連合も過半数を取れなか

ったのは、排外主義の極右政党であるスウェーデン民主党が第3党にまで躍進したためです。

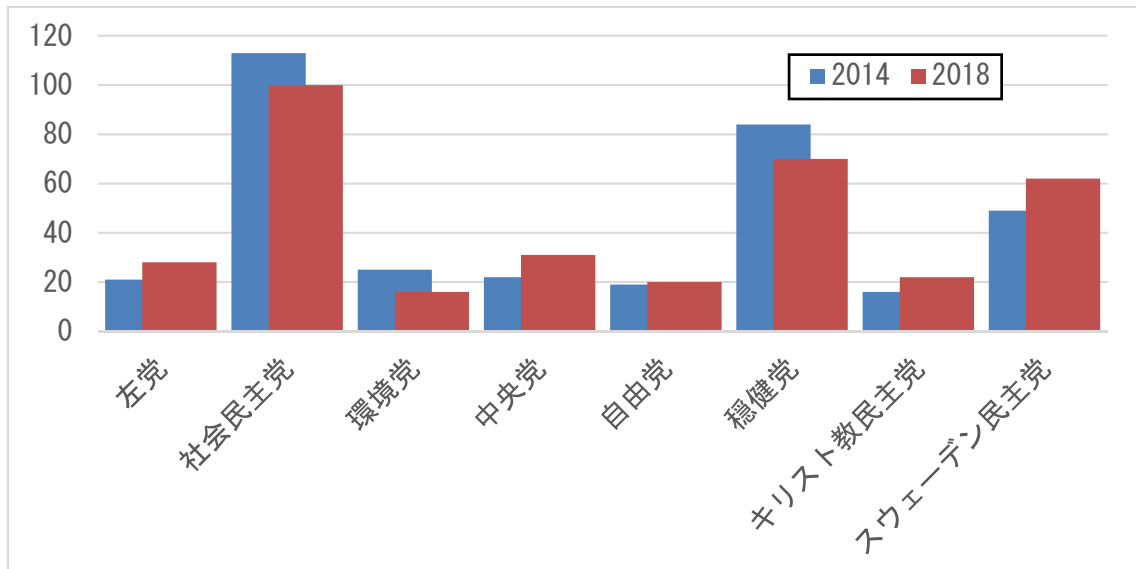
2015年の難民受け入れの急増による社会の混乱とそれによる排外主義的風潮の高まりは、2018年の総選挙において、スウェーデン民主党の一層の躍進をもたらすものと予想されていました。そのため選挙戦は、右派政党、左派政党、スウェーデン民主党と

いう3つの陣営が互いに激しくぶつかり合う形になりました。

その結果、もともと高かった投票率はさらに上がって87.18%に達しました。当選者数に占める女性の比率も46.1%と過去最高を記録しました。

しかしその選挙結果は誰にとってももどかしく、悩ましい結果となってしまいました。

【総選挙における各政党の議席増減】



選挙前には、スウェーデン民主党が第1党となるのではとの予想が出たこともありましたが（そして、選挙直後には「極右政党が第1党に」との結果を伝えたフェイクニュースが日本でも流れました）。そして確かにスウェーデン民主党は前回の49議席から13も議席を増やし、62議席を獲得しました。

けれども依然として第3党の座に甘んずることとなり、同党としては不満の残る結果であったものと思われます。

しかし選挙では社会民主党と穏健党とい

う2大政党の凋落も露になりました。社会民主党は依然として最大政党の座を維持したものの、13議席減らしての100議席にとどまりました。議席占有率は28.7%と、10年以上前の結党間もない1911年選挙以来の30%割れとなりました。

右派のリーダーである穏健党は社会民主党以上の14議席を失って70議席と、辛うじて第2党の座に踏みとどまったものの、スウェーデン民主党との差はわずか2議席となってしまいました。

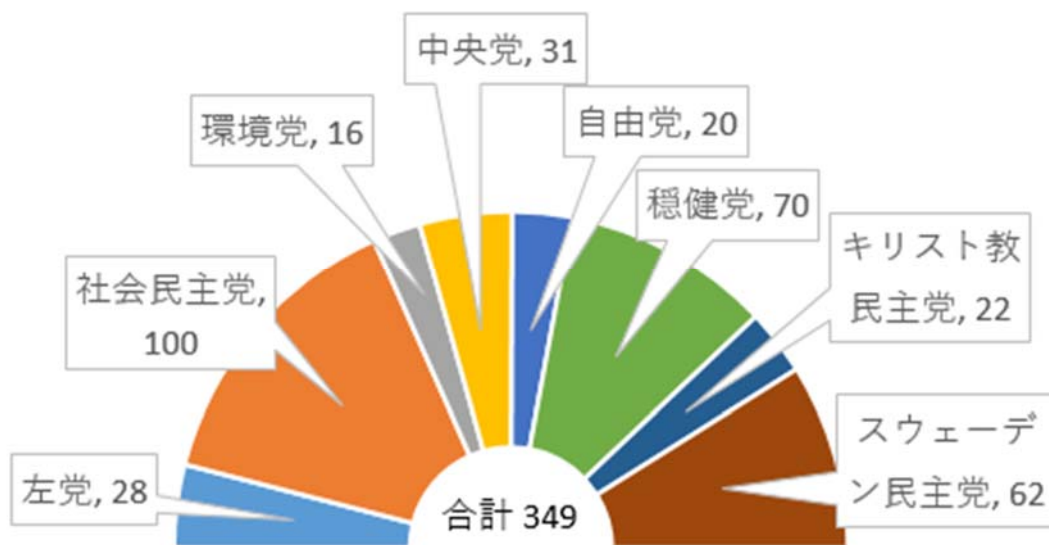
他の党については、社会民主党とともに

政権党であった環境党が議席を減らし、これまでの政権に対する不満が明らかになりました。中央党やキリスト教民主党は、しばしば互いに比較されることの多い女性党首たちの人気も手伝って議席を増やしましたが、右派連合全体で過半数を獲得するには至りませんでした。このため、新たな政権を

樹立するのが前回選挙以上に難しくなっていました。

実は、本原稿の執筆時点（2019年1月初め）で、すでに4カ月近くが経過していますが、まだ新しい政権が発足しておらず、これまでの政権が暫定的に国家運営を行っているという状況です。

【2018年総選挙後の各政党の議席配分】



選挙後の議席配分を見ると、左派3党が合わせて144議席、右派4党が合わせて143議席と、左派が1議席だけ上回っている状況です。しかしスウェーデン民主党はこれまでの左派政権を痛烈に批判しており、この政権を認める可能性はほぼありません。

スウェーデン民主党としては、右派連合とであれば手を組みたいと考えていますが、右派連合の中で、政権を取るためにそれに応じて手を組むべきと考えるグループ（キリスト教民主党と穏健党）と、何があっても手を組まないと考えるグループ（自由党と中央党）との対立が生じています。ちなみに穏健党とキリスト教民主党が右派連合を解

消し、スウェーデン民主党と組んでも154議席と、まだ過半数に足りません。

かたや左派側が「反スウェーデン民主党連合」ということで、中央党と自由党を自派に引き入れるという選択肢も考えられ、それで決まりかと思われた時期もあったのですが、それまで左-右で激しく対立してきた溝を埋めるのはなかなか難しく、これも今のところ上手くいっていません。

スウェーデンの法律では、4回首相の指名選挙を行ってそれでも決まらない場合には、再選挙を行うこととされています。

まず選挙後に現職で社会民主党党首のステファン・ロベーン首相の不信任案が可決

され、その流れで右派連合のリーダーである穏健党のウルフ・クリステルソン党首を候補とする第1回目の首相指名選挙が行われましたが、これは否決されました。

そこで再びステファン・ロベーン氏を首相とする形での政権樹立が模索され、第2回目の首相指名選挙が行われましたが、これも否決に終わりました。

首相指名選挙の可能性は、執筆時点で、まだあと2回残っています。スウェーデン民主党のジミー・オーケソン党首は、再選挙を求める声をたびたび上げていますが、難民の受け入れが一段落して社会が落ち着きを

取り戻しつつある中で、果たして同党が現在の勢力を維持することができるかは予断を許しません。

とはいえ、スウェーデン民主党以外の政党も今回の首相指名の混乱を見せつけられている国民たちからの支持を得られるとも限りません。

このまま再選挙を行わず、何らかの形で決着する道が見つかるのか、それとも選挙で再び国民の審判を仰ぐのか、スウェーデンの政治から、まだ目が離せません。

※後述の2018年10月の研究講座の記事も合わせてお読みください。

【2018年5月研究講座】

マグヌス・ローバック大使ご講演

今年で日本とスウェーデンは外交関係樹立150周年となりました。今回はローバック大使に、スウェーデンと日本のこれまでの関係の振り返りと、今後の関係についてのお話をいただきました。

<ビジネスサミットについて>

今年のビジネスサミットには、これまでで最も多くのビジネスマンがスウェーデンから来日しました。その理由としては、日本で行われている様々な改革や日本とEUのEPAが結ばれつつある現状への興味の高まりがあると考えています。特に日本とEUのEPAは、政治的にも重要なトピックです。日本側、EU側とも、その関係のあり方について互いに真剣に向き合うきっかけになるでしょう。

<安倍首相とロベーン首相の会談>

2017年7月に安部首相とロベーン首相が会談しましたが、その中で話された内容について話します。まずスウェーデンと日本が現在注目している4つの領域として、(1)ビジネス、貿易、(2)社会問題、(3)研究・イノベーション、(4)文化があります。その中でも社会問題については、様々な面からのアプローチがあります。スウェーデン企業が経団連との対話で注目していたのは、男女平等です。男女平等を促進するためのセミナーを開催したり、女性のプロフェッショナルリズムを高める上で障害となる税金を問題について考えたりしているようです。また、鎌倉市とスウェーデンのイノベーション関連の組織が、高齢化社会について協力する関係を築いています。鎌倉市は2/3が高齢者の地域であり、このコミュニティを発展

させるために「リビングラボ」という取り組みをしています。ここにさらにスウェーデンと共に公共、民間、市民、科学の4つを掛け合わせる取り組みを考えています。このように地方自治体の活動においても日本とスウェーデンの関係が意識されています。他にも、名古屋で行われているスマート保育園の取り組みなど、魅力的なイノベーションを積極的にサポートしていきたいと考えています。

<150周年の主要トピック>

日本とスウェーデンの国交樹立 150周年を機に、両国の関係をさらに深めるような具体的な取り組みがいくつか行われています。まずは社会保障です。一方の国で年金保険料を払っていたにもかかわらず他方の国でもらえない、という問題をどのような仕組みで解決するか、日本とスウェーデンで話し合う予定です。

次に、学生向けのワークビザと直行便です。ワークビザについては、来年あたりに施行する見通しであり、直行便については、2020年あたりに成田ーストックホルム間で予定しています。この二つの変化によって、日本とスウェーデンでの人々の交流がさらに活発になることを期待しています。

環境問題の中では、海洋問題に注目しています。珊瑚礁が減少している現状について、その解決のパワーを持っていると考えられる日本の漁業関係の企業と科学的な話をしたいと思っています。

<150周年文化イベント>

文化の関係は両国で大変重要な話題です。150周年を祝って、音楽、アート、映画、スポーツ、教育など様々なジャンルで多くのイベントが計画されています。「長くつ下のピッピ」の作者であるアストリッド・リンドグレーンの東京富士美術館での展覧会、リサ・ラーソンの展示会、カール&カーリン・ラーションの展示会、若手デザイナーの賞、陶芸の展示会、メタルのコンサートなど、1年を通して文化の交流を深める機会を多く作っていきます。

18世紀、日本の鎖国時代に来たトゥンベリー（パイオニア）が150周年記念のウェブサイトには歴史として書かれていますが、この方々の活躍が今までのスウェーデンと日本の関係を作ってきたものだというのがわかります。近い未来にも、私たちの関係を発展させる多くのパイオニアたちが現れる気がしています。

<まとめ>

今回は150周年という節目をテーマに政治から文化イベントまで幅広くお話いただきました。最後の章でお話された文化イベントやその前のワークビザと直行便のお話などから、これまでの政府と企業レベルでの交流に加えて、より幅広い市民レベルでの交流が今後深まっていくのではないかと感じました。

[記録：明治大学国際日本学部4年

中村 優里]

【2018年7月研究講座】

「北欧に学ぶ男女平等」 北欧語翻訳者 枇谷玲子氏

<はじめに>

今回は翻訳家の枇谷玲子さんにご講演いただきました。枇谷さんのご家庭では、男性が家族を養い、女性は専業主婦という考えが強く、その環境がフェミニズムに興味を持つきっかけになったとお話しされています。東京の大学に2年間在籍し、大阪外国語大学のデンマーク学科に編入、デンマーク留学を1年間経験されました。卒論では、なぜ子供向けのコンテンツで両親の離婚について書かれているのかをテーマに書かれたそうです。大学在籍時より翻訳の仕事を始め、卒業後は2年間翻訳とは関わりのない仕事をされていましたが、出産を機に再び翻訳の仕事に就かれたそうです。



<子供とフェミニズム>

以下からは、サッサ・ブーレグレン作の「10歳からの民主主義レッスン」をテーマに、枇谷さんと鈴木教授、参加者の方々との対話を交えて進みます。

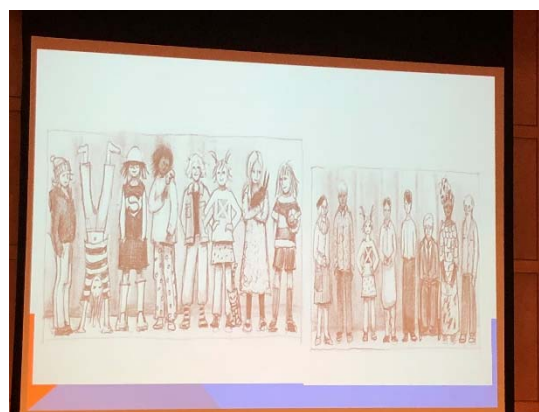
枇谷さん：この本では、子供たちの社会参加の仕方がワークショップ風に書かれていま

す。子供は様々な問題に対して、大人が考えつかないようなアイデアを持っています。ですから、もっと社会に参加すべきだと思うのです。

鈴木教授：ここでは、子供が子供として出す意見が重要とされていますね。それに対して日本では、子供は半人前とされており、守るべき存在のように思われていますよね。

<不平等に気づく>

この章では、女の子が世界の権力者の写真を見て、全員スーツを着ていることに気づき、様々な服を着ていたほうが良いのではないかと考える場面があります。



枇谷さん：もし日本の子供に向けて日本の作家が書くとすれば、どんなたとえがあるでしょうか？部活動では、男の子の部活には女の子のマネージャーがいて、女の子の部活にはマネージャーがないのはなぜか、あるいは男女での食事で女の子が食べ物を取り分けたりするのはなぜか、というようなことでしょうか。みなさんにもこういう

経験ありませんでしたか？

鈴木教授：父母会に行くとき女の人ばかりで、先生が「お母さん方」と呼びかけることに違和感を覚えてしまいます。PTA活動においても、男がいないほうがやりやすいという雰囲気を感じる場合があります。

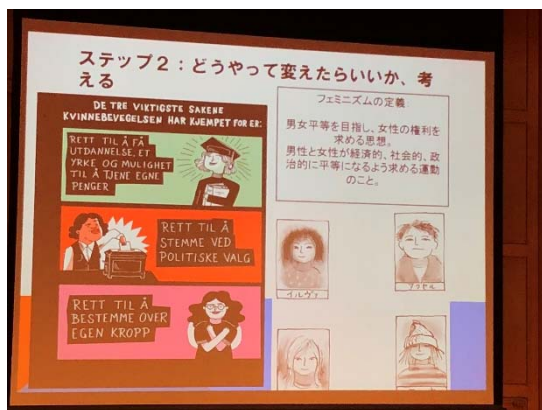
参加者：結婚した時に女の名にするのはわずか3%程度、というもありますね。その3%も家柄が良いといった特殊なケースに限られることが多いので、基本的には男性の名になるということです。

参加者：外国の航空会社では男性のCAが多くいますが、日本のCAは女性ばかりです。

鈴木教授：反対に女性のパイロットは非常に少ないですね。車掌さんは最近女性の方も増えてきている気がしますが。

<どうやって変えたらいいか、考える>

この章では、女の子が世界の大事な仕事をする人はおじさんばかりなのを不思議に思います。ずっとそうだったからって不公平じゃない！と言うと、自分で変えなきゃいけないことを教わり、早速フェミクラブというクラブを作ります。



枇谷さん：ここにフェミニズムの定義が書

かれているのですが、まだ日本ではフェミニズムの定義が知られていないと感じることがあります。出版社からフェミニズムって何ですか？と聞かれることがありますし、自分がフェミニストということに抵抗がある日本人は多いです。男嫌いとか女性が有利に立とうとする考え方だと勘違いしている人が少なくないのが現状です。

鈴木教授：ゼミ生を連れてスウェーデンにフィールドワークに行った時に、フェミニズムの団体と会いました。そこで男女平等に賛成するからという理由で男性も参加していたことに、ゼミ生が衝撃を受けていました。

参加者：フェミニズムに賛成することで、男性にはどんなメリットがあるのですか？

鈴木教授：ジェンダーギャップが低い方が男性も幸せだからだと思います。日本は女性の方が男性よりも幸福度が高く、他の国々と比較すると、ジェンダーギャップがある国の方が男性の幸福度が低いというデータがあります。男性の方が職業選択など何かとストレスになっているのではないのでしょうか。女性は転職などをしてもパートナーとしての価値を失いませんが、男性が転職をすると、パートナーやその親から嫌味を言われたりしますからね。

<行動に移す>

この章では、フェミニストとして具体的にどんな行動ができるかを考えています。例えば、デモに参加する、男女を平等に扱う、表現に敏感になるなどです。

枇谷さん：私は、知ったことを周りに伝えることが重要だと思って翻訳しています。フェミニズムの絵本を出版社に持って行くの

ですが、出版してもらうのがすごく難しい。一般の出版社は勤務時間が長いため、決定権を持っている人はほとんど男性です。みなさんはどのような行動をされていますか？

参加者：「旦那さん、奥さん」という表現をしないようにしています。あと、お弁当を作ると「女子力高いね」と言われるのですが、「それは生活力ですよ」と返したりして、ジェンダーの意識がある人というイメージを周りの人に持ってもらうようにしています。そうすることで周りの人が自身の意識の低さに気づくかもしれないからです。

鈴木教授：反対に選挙などではパートナーを紹介する時に「妻です」と言うのはならず、「家内です」と言わなければならないというしきたりがあるそうです。

参加者：私は小学校に務めているのですが、男の子がピンクのものを選ぶと「女だー」と他の子から言われたりします。職業選びで

も同じです。だからそういう時には「誰でもなれるんだよ」と言っています。親の中にも女の子は礼儀正しく育てなければいけない、男の子ならやんちゃでもいい、という考えがあるみたいで、新一年生の時から男女の育てられ方に差を感じますね。

<おわりに>

枇谷さん翻訳の「北欧に学ぶ小さなフェミニストの本」は男女がどうやったら労わりあえるのかを主人公の女の子と一緒に考える本です。様々な話が展開された対話では、日本の男女差別は無意識な部分に染み付いていると感じましたが、まさにこのような社会にこそ子供の子供らしい視点が、大人にとっては新鮮で重要であるように思いました。

[記録者：

明治大学国際日本学部4年 中村優里]

【2018年10月研究講座】

第1部「スウェーデンの総選挙」 JISS 代表理事・所長 鈴木賢志

第2部「スウェーデンと日本の現代美術の交流」

現代美術アーティスト 三友周太氏

第1部

「スウェーデンの2018年総選挙」

当研究所代表理事の鈴木賢志より、4年ぶりとなるスウェーデンの総選挙についてのお話です。

<スウェーデンの選挙制度>

選挙制度を日本と比較して特徴的であっ

たのは、内閣が途中解散した場合、新たに発足した内閣の任期は前内閣の任期を含めた4年間だということです。前内閣が3年間続いて解散した場合、次の内閣の任期は残りの1年間のみとなります。

また、スウェーデンでは投票用紙が厳重に扱われておらず、投票場所に何枚も置きっぱなしになっています。

<スウェーデンの政党政治の歴史的展開>

スウェーデンでは 1908 年にまず男子普通選挙が開始され、1921 年に男女普通選挙が開始されました。1932 年から 2006 年までの大部分で社会民主党政権が勝っていたため、スウェーデンは福祉国家と言われるようになりました。右派の政権と左派の政権の主な違いは、税金の高さと福祉サービスの上下の差です。



<各党の特報と主張>

(1) 社会民主党：労働組合の力が強い特徴があり、法人税を下げるなど現実的な路線を取りつつ柔軟性があります。長年政権を担ってきた政党です。

(2) 左党：元共産党。福祉サービスを手厚くするために税金もしっかり取る派の政党です。

(3) 環境党：現在は社会民主党と連立政権を組んでいます。党首は決めず、2人の男女の代表がいます。若い人の支持が多く、学校選挙の結果を見ると環境党がとても高いです。

(4) 中央党：左派と右派の中央とされている政党です。税金を下げて地方の農村地帯と中小企業を守ろうという立場から、現在

は右よりとされ、右派連合に属しています。

(5) 穏健党：右派の中心となる政党です。減税し、福祉サービスをなるべく民間に任せるという立場であり、企業や高所得者が主な支持層です。

(6) 自由党：穏健党に近いポジションですが、よりリベラルな考え方をする政党です。移民受け入れや教育に力を入れています。

(7) キリスト教民主党：キリスト教的世界観に基づき、親子や家族愛を重視した高齢者福祉に力を入れる政党です。移民に対しては、人類愛として支持する気持ちがある一方、国内のイスラム教徒の増加については批判的な見方を取ります。

(8) スウェーデン民主党：ネオナチの流れを汲んでいると言われている政党です。EUや移民受け入れに対して強く反対する姿勢を取る極右政党とされています。

<2018年総選挙の争点>

1つは移民問題であり、極右のスウェーデン民主党を支持するか否かという問題です。

もう1つは規制を強めるか自由にして民間に任せるといった問題です。スウェーデン民主党以外の政党は一枚岩ではなく、右寄りの自由派と左寄りの規制派で意見が分かれます。

<2018年総選挙の結果>

総選挙の結果は票の多い順から、社会民主党、穏健党、スウェーデン民主党の順でした。スウェーデン国内では予想よりもスウェーデン民主党の支持率が低かったことに胸をなで下ろす人が多かったという印象を持っています。ただし最も票を集めた左派

の社会民主党は大幅に議席を減らし、左派と右派の議席差がたった1票という、苦しい結果に終わりました。穏健党を含んだ右派としても1票差とは言え敗北感があり、極右のスウェーデン民主党についても、結局第3政党に甘んずることになったという敗北感が漂いました。



<今後の展望>

首相はまだ決まっていますが、国会の議長には穏健党が就任しました。今後の動向としては、スウェーデン民主党を穏健党から右派が受け入れるのか、社会民主党が中央党や自由党などの中道右派の取り込みを図るのか、それともどこかが少数政権を形成するのか、といったシナリオが考えられます。

第2部 スウェーデンと日本の現代美術の交流

次に現代美術アーティストの三友周太さんより、スウェーデン・日本の両国で開催された150周年記念の現代美術交流展についてのお話をいただきました。



<「Mångata / 木漏れ日」>

テーマのスウェーデン語「Mångata」は、「月の光が輝いている様子」という意味です。「Mångata」と「木漏れ日」は、どちらも一方の国では1つの単語で表現できるけれども、もう一方の国では表現できない概念です。この展示の作品を通じて感覚的な部分で触れ合う、というようなテーマが表現されています。

この国際作家交流展は三友さんが運営されている「Art Lab AKIBA」と「Art Lab TOKYO」というスペースで行われました。作品展ではイベントとしてフィーカを取り入れ、訪れた人々とスウェーデンの文化を楽しむ場面もあったそうです。展示されたスウェーデン人と日本人の作品を通

して、互いに似ている作風を感じつつ、全く異なる環境からそれらが生まれているのが非常に面白いとのことでした。

日本の古着屋やファブリックからインスピレーションを得て日本製の素材を使って表現しているアーティストや、テーマが決まっているにも関わらず全く関係ない作品を固い意志で展示するアーティストなど、個性豊かな作品展となったそうです。

この作品展に参加したスウェーデンのアーティスト達の中には、生活のために学校の事務など様々な仕事の傍でアーティスト活動されている人もいらっしゃいました。しかしスウェーデンの助成金の制度は日本よりも恵まれているということでした。



<日本人アーティストの方々のコメント>

スウェーデンは自然豊かで美しく、人々からも穏やかな雰囲気を感じた一方で、現代アートでは過激なものを好むところが意外だったとのことでした。

交流したスウェーデン人のアーティストの中にも、現地のアートスクールにはそのような過激な作風の学生が多くやりづらかった、という方もいたそうです。そのアーティストは来日した際に、自分に合った環境はここ（日本）だ！と感じたそうです。

また、街に貼られていた環境党のポスターがとてもお洒落で大変驚いたそうです。他の党と比べて環境党だけとてもアーティストックで、若者に支持される党という背景があるのではないかというお話もありました。

[記録者：

明治大学国際日本学部4年 中村優里]

【2018年11月研究講座】

日瑞外交150周年記念コンサート

今回は、日本・スウェーデン外交関係樹立150周年の記念事業の一環として来日されているストックホルム・エステルマルム音楽&文化アカデミーのご一行をスウェーデン大使館にお招きし、下記のプログラムでコンサートを実施いたしました。

またコンサートに先立ち、ベルイマンホールにて、日本とスウェーデンの両方の文化に根ざした新しい芸術作品の紹介として、太田由佳里氏 (Min Favorit Design YKR 代表、家具職人) による白樺作品の展示と白樺小物の製作実演、大矢真義氏 (Studio Oyama

代表、陶芸家)による陶芸作品の展示が行われました。

なお今回のコンサートでは、日本とスウェーデンを繋ぐ音楽の架け橋としてカシオ計算機株式会社の電子ピアノ『Celviano Grand Hybrid』を使用させていただきました。

本研究所のイベントとしては初めての試みでしたが、ストックホルム・エステルマルム音楽&文化アカデミーの先生方の気さくな雰囲気もあって、和やかな、しかし格調の高い、良いコンサートになりました。

ギターとピアノ

ミュージカル「ドゥーヴェモーラのクリティナーナ」(B・アンデション/B・ウルヴェニウス)より

ドゥーヴェモーラ・ガーデン

スウェーデンの民謡

おお、美しいヴェルムランドよ

ギターとうたとピアノ

さくら (伝統)

さくら (森山直太郎)

前半

ごあいさつ

加勢園子 日瑞音楽留学基金理事長、ストックホルム・エステルマルム音楽&文化アカデミー院長

ピアノ

ウィルヘルム・ペッテション=ベリエル
フレーセーの花々 第1集

ギターとうた カール・ミカエル・ベルマン

今バイオリンをねじ込む

羽ばたく蝶ちよ

太陽が輝く

夜の神よ 姿を現し給え

休憩

後半

ピアノ ウィルヘルム・ステーンハンマル
3つのファンタジー op.11 より No.1



【2018年12月研究講座】リンドグレン朗読会
アストリッド・リンドグレン作『やかまし村の子供達』

今回は、1994年～2013年までスウェーデン大使館にてアウグスト・ストリンドベリイ作品(スウェーデンの代表的作家)を上演し、近年は本研究所のセミナーにてスウェーデン作品の朗読を披露されている毛利まこ理事の演出・指導のもとで、アストリッド・リンドグレン作『やかまし村の子供達』の朗読会を実施しました。

朗読会に先立ち、本研究所の鈴木よりアストリッド・リンドグレンの生涯について解説しました。

朗読会は、毛利理事が主宰する朗読グループ(ブローシッパ・アカデミー)の皆様に加え、本研究所の鈴木と村田訓吉理事、鈴木ゼミの学生の坂場春香さんにも参加していただきました。

今回のテーマは“飛び出す絵本”ということで、従来の朗読の形式とは異なり立体的な語りで“やかまし村のクリスマス”を楽しみました。

また朗読会の後には、レストランストックホルムに会場を移し、スウェーデンのクリスマスディナー(ユールボード)を楽しむクリスマス会を開催し、多くの方々にご参加いただきました。

